

作成日 : 2010 年 10 月 01 日

改訂日 : 2024 年 02 月 15 日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 (商品名)	リンカ S・1
会社名	一般財団法人 北海道森林整備公社
住所	〒060-0004 札幌市中央区北 4 条西 5 丁目 1 番地 林業会館 4F
担当部門	森林保全課
電話番号	011-281-4241
FAX 番号	011-261-3758
e-mail	shinrinhozenka@do-sinrin.jp
緊急連絡先	森林保全課
電話番号	011-281-4241
推奨用途及び使用上の制限	農薬
整理番号	未設定

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】

物理化学的危険性	自然発火性固体	区分外
	水反応可燃性化学品	区分 3
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
	急性毒性 (経皮)	区分 5
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分 3
	オゾン層への有害性	区分外

* 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

【GHS ラベル要素】

絵表示又はシンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	水に触れると可燃性/引火性ガスを発生 飲み込むと有害 皮膚に接触すると有害のおそれ 強い眼刺激 水生生物に有害

注意書き

安全対策

子供の手の届かないところに置くこと。
使用前にラベルをよく読むこと。
取扱後は、手、顔等をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

応急措置	<p>必要な時以外は環境への放出を避けること。</p> <p>保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。</p> <p>飲み込んだ場合：口をすすぐこと。医療措置を受けること。</p> <p>皮膚に付着した場合：医療措置を受けること。</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合：医療措置を受けること。</p> <p>火災の場合：消火するために特殊粉末消火薬剤、乾燥砂を使用すること。</p>
保管	乾燥した場所または密閉容器に保管すること。
廃棄	内容物／容器を国及び地方自治体の廃棄物処理に関する法律・条令に従い廃棄すること。
国／地域情報	—

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	リンカ S・1
組成情報	
1) 化学名	リン化亜鉛
別名	二リン化三亜鉛
含有量	1.0%
化学式	P ₂ Zn ₃
化審法	(1)-565
安衛法	—
CAS No.	1314-84-7
2) 化学名	穀粉、色素等
別名	—
含有量	99.0%
化学式	—
化審法	—
安衛法	—
CAS No.	—

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。
皮膚に付着した場合	<p>多量の水及び石鹼でよく洗い流す。</p> <p>水泡、痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。</p>
眼に入った場合	直ちに清浄な水で15分以上洗浄した後、医師の処置を受ける。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。

飲み込んだ場合	水でよく口の中を洗浄する。可能であれば、指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医療措置を受ける手配をする。
応急処置をする者の保護	被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはいけない。救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	特になし。

5. 火災時の措置

消火剤	火災には、特殊粉末消火薬剤、乾燥砂を用いる。他の物質は不可。
使ってはならない消火剤	水、二酸化炭素は不可。酸、水、酸化剤との接触禁止。
火災時の特有の危険有害性	不燃性だが、水または湿った空気に触れると引火性ガスを生じる。当該製品は分子中に窒素、リン、硫黄、ハロゲン含有しているため火災時に刺激性もしくは有毒なヒュームまたはガスを放出する。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 周囲の設備等に散水して冷却する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火を行う者の保護	関係者以外は安全な場所に退去させる。 消火活動は風上から行ない、有毒なガスの吸入を避ける。 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。 風上から作業し、風下の人を退避させる。 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。 多量の場合、人を安全に退避させる。 漏出時の処理を行なう際には、必ず「8. ばく露防止及び保護措置」の保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法	飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	取扱いは、換気のよい場所で行う。 取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。 飛散した蒸気（粉じん）を吸い込まないようにする。 屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。 取扱いの都度、容器を密閉する。 皮膚、粘膜または着衣に触れたり、眼に入らないようにする。

局所排気・全体換気	取扱い場所には、関係者以外の立入りを禁止する。 保護手袋および保護眼鏡等の適切な保護具を着用する。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
安全取扱い注意事項	屋内で取扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で取扱う。
接触回避	特になし。
保管	強酸化剤、酸、水との接触禁止。
技術的対策	通気性の良い場所で容器を密閉し、保管する。 直射日光が当たらないように保管する。 施錠して保管する。
保管条件	特になし。
混触危険物質	強酸化剤、酸、水との接触禁止。
容器包装材料	別の容器に小分けして保管しないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。 取扱い場所に、全体換気装置を設置することが望ましい。 取扱い場所の近くに、緊急時に目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
管理濃度	未設定
許容濃度	ACGIH リン化亜鉛 TLV 0.4mg/m ³ 、STEL1mg/m ³
保護具	
呼吸器の保護具	農薬用マスク（通常時）、防毒マスク（消火活動時）
手の保護具	ゴム手袋（通常時）、耐熱性手袋（消火活動時）
目の保護具	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	帽子、ゴム長靴、不浸透性防除衣

9. 物理的及び化学的性質

外観	黒色粒状
臭い	特異臭
pH	7.3
融点／凝固点	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	データなし
引火点	100℃≦
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
比重	0.70
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱い条件下では安定。
危険有害反応可能性	加熱、酸により分解し、また水との接触により徐々に分解し、有毒で引火性のフューム（リン酸化物、亜鉛酸化物、ホスフィン）を生じる。分解する。
避けるべき条件	極低温、高温、多湿。強酸化剤、酸、水及び湿気のある空気との接触。
混触危険物質	強酸化剤と激しく反応し、火災の危険をもたらす。
危険有害な分解生成物	当該製品は分子中に窒素、リン、硫黄、ハロゲン含有しているため火災時に刺激性もしくは有毒なヒュームまたはガスを放出する。酸及び水により分解して有害なフューム（引火性ガス等）を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	経口 ラット LD ₅₀ =707mg/kg (3%粒剤) (♂) ¹⁾ ラット LD ₅₀ =933mg/kg (3%粒剤) (♀) ¹⁾ 経皮 ラット LD ₅₀ >2000mg/kg (3%粒剤) (♂♀) ¹⁾
皮膚腐食性/刺激性	ウサギ 刺激性なし (3%粒剤) ¹⁾
眼に対する重篤な損傷刺激性	ウサギ 非洗眼 中等度の刺激性あり (3%粒剤) ¹⁾ 洗眼 最小限度の刺激あり (3%粒剤) ¹⁾
呼吸器又は皮膚感作性	モルモット 皮膚感作性なし (3%粒剤) ¹⁾
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	データなし
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	コイ LC ₅₀ (96 時間) 125mg/L (3%粒剤) ¹⁾ オオミジンコ EC ₅₀ (48 時間) 443mg/L (3%粒剤) ¹⁾ 藻類 EbC ₅₀ (0-72 時間) 12.2mg/L (3%粒剤) ¹⁾
残留性/分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	当該製品には、モントリオール議定書 (附属書) に記載された規制物質は含まれない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物・容器及び包装	都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
--------------	---------------------------------

14. 輸送上の注意

国内規制	陸上規制情報	道路法等、消防法の規定に従う。
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別の安全対策		輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。食品、飼料、肥料、種子とできるだけ混載しない。

15. 適用法令

農薬取締法	登録番号 第13287号
労働安全衛生法	非該当
消防法	非該当
毒物および劇物取締法	非該当
化学物質管理促進法	非該当

16. その他の情報

問い合わせ先	一般財団法人 北海道森林整備公社 森林保全課 〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目1番地 林業会館 4F TEL 011-281-4241
--------	--

引用文献	1) 農薬登録申請書
免責事項	記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の見解を前提としたものであって、特別な取扱いをする場合は用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。
